

P.2 **報告** 開館50周年記念企画展
「すべてみせます！収蔵庫の資料たち」を開催して

P.3 **テーマ展示** 令和5年4月15日(土)～5月14日(日)
令和5年度 鳥取県立博物館 美術部門テーマ展示

Sense of Size センス・オブ・サイズ

～「大きさ」という視点からアートを読み解くと

P.4 **企画展** 令和5年7月1日(土)～8月27日(日)
ノーベル賞受賞100年記念 **アインシュタイン展**

P.5 [自然] コラム お披露目まぢか！巨大キノコ「オオミヤマトンビマイ」

P.6 [人文] 資料紹介 縄文時代のペンダントトップ —鳥取市布勢遺跡出土の大珠—

P.7 [美術] 新収蔵品紹介 片山楊谷《猛虎図》—虎を得意とした楊谷 異色の三幅対—

P.8 移動博物館（会場：北栄みらい伝承館）・移動美術館（会場：日南町美術館）

報告 開館 50 周年記念企画展「すべてみせます！ 収蔵庫の資料たち」を開催して

開館 50 周年の節目に、博物館の収蔵資料を可能な限りすべて見ていただこうと、令和 4 年 10 月 29 日（土）から 12 月 11 日（日）の 38 日間（月曜休館）、企画展「すべてみせます！ 収蔵庫の資料たち」を開催しました。この間、7,490 人の方にお越しいただき、様々な声をいただきました。アンケートでは「大変よかった」「よかった」との回答が 96% ありました。また、新聞やテレビ、Twitter や Facebook などでも多く取り上げられ、全国的にも話題になりました。そこで、博物館のこれからの姿を皆さんと一緒に考えていくためにも、一部にはなりますが、お寄せいただいた声をご紹介します。（学芸課 川上 靖）

~~~~~ お寄せいただいた声 ~~~~~

- 収蔵品の多くを目にし、涙が出るほど感動しました。よくぞこれだけの県民の宝を守ってくれていると感激しました。
- 子供の頃を思い出して、また父・母に会えた気持ちになり、わくわくしました。ありがとうございました。
- 日頃どう収蔵されているのか、博物館による収集・整理・研究にどのような意義があるのか（いかに価値あることをなさっているのか）が良く分かりました。展示方法含め、大変すばらしい企画だったと思いました。
- とにかくよかった。子どもたち、孫たちに見せたい。
- I really enjoyed it. There is a lot to see, so I learned a lot. Staff is very friendly and nice.
- こんなにすばらしい収蔵品が眠っていると知りませんでした。第 2 回も開催してもらいたいです。
- 圧倒的な物量に驚きました。国宝展にも勝るとも劣らないスケールで、来たかきがありました。
- 50 周年にふさわしい素晴らしい展示でした。多くのコレクションを大事にした博物館としてこれからも期待します。
- 県立博物館 50th を偲ぶ学芸員さんたちの情熱がすごく伝わってきました。
- 疑問にすぐ学芸員さんが答えてくれて、より一層楽しめました。



- 学芸員・研究員の解説がとても良かった。
- 来年度もまたぜひ企画してほしい！！
- 定期開催希望します。
- もう一度やってほしい。孫にも見せたかった。
- 県博の凄さがわかりました。
- キャプションは UD フォントで可読性が高い点は素晴らしい！
- 県立博物館の歴史を肌で感じる事ができた。
- 鳥取県にはこんなにたくさんの宝物があるんですね！
- こんなに多くすばらしい物が…。感動。
- 鳥取県の美術界を形成した人々の苦勞（寄贈した方々の熱意も）がわかり、熱い思いを感じた。
- 歴史的なもの、生物、化石、美術など多くの収蔵物を見て学ぶことができた。生物、とくに動物のはく製は圧巻でした。
- 保管、修復されるご苦勞のおかげで、県民の財産となっています。今後もこのような大がかりな展示を拝見したいです。



テーマ展示

令和5年度 鳥取県立博物館 美術部門テーマ展示

Sense of Size センス・オブ・サイズ

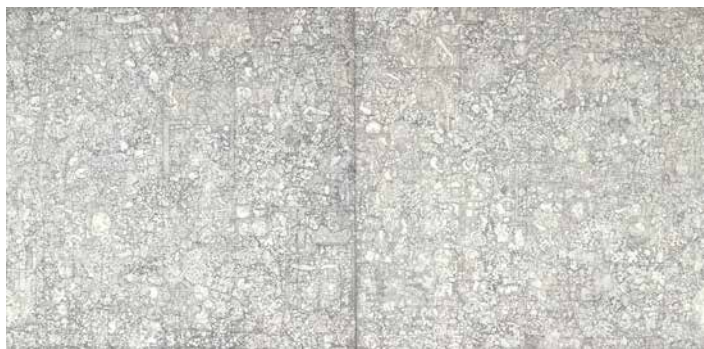
～「大きさ」という視点からアートを読み解くと

令和5年4月15日(土)～5月14日(日)

私たちが普段から持っている感覚の一つに「大きさの感覚」というものがあります。「スケール感」とも言い換えられることのあるこの感覚。「度量(スケール)の大きな人物」とか、「瑣末なことにこだわるな」といった抽象的な意味合いで使われることもあります。ここではひとまず「物理的な大きさ」を起点にしましょう。

アートの文脈で言えば、「大画面の巨大な絵画」「モデルを等身大に描く」「大きなタッチ」「小さな器に描かれた、さらに小さな人物」のように、大きさにまつわる言葉は、キャンバスや紙といった作品の支持体全体の寸法や、その内側で表現されるイメージに関する特徴をあらわす際などにいろいろと使われてきました。さらに、支持体の大きな作品でも小さな作品でも、そのフレームのサイズに応じて適切な表現がなされることが、優れた美術作品が生まれる一つの条件ともなってきたと言えるかもしれません。

当館の令和5年度最初の展覧会となる美術部門テーマ展示では、当館収蔵のさまざまな美術作品や関係資料を、「大きさ」「寸法」「サイズ」という観点から読み解きながら紹介し、それぞれの作品たちが持っている魅力や価値、個性に光を当てていきたいと思えます。



齋鹿逸郎《Untitled Continuous File-1988》1988(昭和63)年 紙・鉛筆、胡粉ほか 181.0×366.0cm

例えば、齋鹿逸郎の作品は驚くほどの大画面による作品ですが、その細部に目をやると実に細かな手わざの無数の集積であることが分かり、膨大な時間をそこに埋め込むためにこの巨大さが必要だったのではないかと感じます。小早川秋聲の屏風に描かれた老人の大きさは、ほぼ等身大かそれよりも少し小さめに描かれており、そのことがこの装飾性の強い屏風に独特のリアリテイを与えているようです。君野コレクションの蒔絵の硯箱や、小さく色鮮やかな堆朱の香合には、鳥や昆虫といった小さな生き物たちが写実的に、或いは文様風



小早川秋聲《蕨風》(右隻)1924(大正13)年頃 絹本・金地著色、銀泥 168.0×374.5cm

に造形されています。これらはいずれも、フレームに適合した作品であると言えるでしょう。しかし、既存のフレームを前提としてその表現が生まれるのか、逆に、作家の内側にある表現や技術というものがフレームを規定するのか。こう問い直すと、様々な可能性が私たちの脳裏をめぐり始めるのではないのでしょうか。

そもそも「大きさの感覚」とは、必ずしも絶対的なものではなく、飽くまでも相対的なものです。例えば、私たち人間にとっては大きな絵画作品でも、巨大な象にとっては小さく、また極小の根付細工なども、一匹の小さな蟻から見れば運ぶこともままならぬほど大きく重たいものでしょう。もしかしたら、アートを通じて私たちの「Sense of Size」を揺さぶることで、人類を基準とする「大きさの感覚」、少し大きさに言うなら「人間中心主義」のようなものを疑う試みにもつながっていくのかもしれない。ぜひ本展を契機に、大きさにまつわる問いの迷宮に足を踏み入れていただきたいと思えます。

(美術振興課 三浦 努)



作者不詳《栗穂雀蒔絵硯箱》
17-18世紀(君野コレクション)の部分図



作者不詳《草虫尽紅花緑葉烏瓜形堆朱香合》
(君野コレクション) 6.2×4.5×3.1cm

- 休館日：会期中の月曜日(ただし、5月1日は開館)
- 観覧料：一般/180円(20名様以上の団体/150円)

※大学生以下・70歳以上の方・学校教育活動での引率者・障がいのある方・難病患者の方・要介護者等及びその介護者は無料



企画展

ノーベル賞受賞100年記念 アインシュタイン展

令和5年7月1日(土)～8月27日(日)

(主催)アインシュタイン展実行委員会、読売新聞社



“自分で経験することほど

何かを上手に学ぶ方法はありません。”

これは相対性理論で有名なアルバート・アインシュタイン(1879～1955年)が語った言葉です。20世紀最高の物理学者と称されるアインシュタインは、相対性理論をはじめとする数々の科学理論について成果を残してきました。E=mc²の式で有名な相対性理論のほか、ブラウン運動や光電効果についても解明し、1921年にはノーベル賞を受賞しています。これらは今日でも様々な分野に影響を与えています。

このたびの企画展「アインシュタイン展」は、そんなアインシュタインの主要な業績である科学理論について、楽しく体験しながら学べる展覧会になっています。

遊んで学ぼう! アインシュタインの科学理論

(1) ブラウン運動 ～ふしぎな動きは分子のしわざ～

気体や液体の中にある小さな微粒子が不規則に動く「ブラウン運動」。アインシュタインは、この現象は微粒子が熱運動している分子と衝突することで起こると考え、後に証明されました。『光のランダムウォーク』では、マスからマスに移動する指示が前後左右不規則に現れます。微粒子になって無事にゴールまでたどりつくことができるのでしょうか?



光のランダムウォーク

(2) 光電効果 ～光は波か? それとも粒か?～

光は「波」か「粒」かという論争がありました。アインシュタインは「波でもあり、粒でもある」と考え、この発見でノーベル物理学賞を受賞しました。『光の粒で電子を飛ばそう!』は、光の粒(ボール)を金属(的)に当てて電子を飛ばしてロケットや星に当てるゲームです。粒の色によってエネルギー(電子が飛ぶ距離)が変わります。



光の粒で電子を飛ばそう!

(3) 特殊相対性理論 ～伸び縮みする時間と空間～

『爆弾解除! 光速サイクリング』は、「光の速さは常に一定」で「時間、空間は相対的なものである」という特殊相対性理論を学べる装置です。自転車をこいで時間や空間が伸び縮みすることを体験できます。

(4) 一般相対性理論 ～まっすぐ進むと曲がってる?～

重力は時空(時間と空間をまとめたいい方)の曲がりである、という一般相対性理論を体験できます。『天体になって宇宙を歩こう』では、宇宙空間を表す床面を踏むと重さを感じてゆがみます。そのゆがんだ床面では光も曲がって進みます。



天体になって宇宙を歩こう

それぞれの科学理論はマンガや絵本でも解説しています。ふしぎな現象を是非体感してみてください。

“大切なのは、疑問をもち続けること。”

このアインシュタインの言葉が示しているとおおり、相対性理論など数々の科学理論を導き出した原点は、彼が子どものころに方位磁石を目にしたときの「なぜ? どうして?」という疑問からきています。身の回りには様々な疑問について常に考えることは、私たちにとってすごく大事なことでないでしょうか。

最後に、アインシュタインの日本訪問の際には鳥取県に立ち寄らなかったのですが、実は当館の所蔵資料の中にアインシュタインゆかりのものがああります。ぜひ展覧会場でお確かめください。

学芸課 茶谷 満

※掲載画像はすべて、大阪展(大阪市立自然史博物館、2021年)の様子 © 読売新聞社

- 休館日: 会期中の月曜日 (ただし、7月17日、8月14日は開館)
 - 観覧料: 一般/800円 (前売・20名様以上の団体・70歳以上/600円)
大学生以下は無料
- 関連イベント 会期中には、企画展関連イベントを開催予定です。

お披露目まぢか！ 巨大キノコ「オオミヤマトンビマイ」

2021年6月24日、鳥取市河原町北村で大型のキノコが見つかったという情報が飛び込んできました。

早速、駆けつけると直径50cmを超える大物でした。太く短い柄から大きな革質の扇形の傘が幾重にも重なっています。傘の裏にひだはありません。調べてみると、巨大なキノコとして知られているオオミヤマトンビマイ^(※)という種類でした。

よく見ると、キノコの傘が周辺のササを取り込んでいました(写真1)。傘が大きくなる時に、押しのけることなく柔かくササを取り込んだものでしょう。成長にともなう傘の質の変化がわかります。



写真1

記録も少ない種類でぜひ標本として残そうと思いましたが、そう簡単ではありません。触ってみると、水分が多くしっとりとした感触があり、少し傘を押し下げても元にもどる程度の弾力がありますが、それ以上の力を加えると壊れそうでした。大きくてもろいので1人での採集は難しく、翌日2人がかりで壊さないよう慎重に掘り上げ、ようやく軽自動車の後部に収めることができました(写真2)。

キノコの標本は主に乾燥標本です。ところが当館の大型乾燥機(底面45×40cm)をもってしても、このキノコは入り切りません。仕方なくナイロン袋の中にキノコを入れ、布団乾燥機をつないで簡易乾燥機としました。2日間乾燥させると少し縮んで、なんとか大型乾燥機に入りました。その後の乾燥でもかなり縮みましたが、ひとまず乾燥状態にすることができ一安心。しかし、乾燥機から取り出すと、革質だった傘が薄くもろく



写真2

なり、自重や少しの外圧で、壊れることが判明しました。残念ながら、この状態では安全に保管できません。

そこで、よりよい保存を目指して、生物の組織に樹脂をしみこませて固めるプラスティネーションという方法で標本化することにしました。

このコラムの執筆時点では、オオミヤマトンビマイはプラスティネーションの加工業者の下にあります(写真3)。今後、補修や彩色など経て、年度末までには納品され、皆さまにお披露目できる予定です。巨大キノコ「オオミヤマトンビマイ」のプラスティネーション標本、是非お楽しみに。

(学芸課 ^{きよすえ ゆきひさ} 清末 幸久)



写真3

※オオミヤマトンビマイ： *Bondarzewia berkeleyi* (ベニタケ目ミヤマトンビマイ科ミヤマトンビマイ属)



資料紹介

縄文時代のペンダントトップ —鳥取市布勢遺跡出土の大珠—



宅地造成の最中に偶然発見

当館所蔵品の中に鳥取市布勢出土の「硬玉製」大珠とされるものがあります。大珠とは、縄文時代のペンダントの一種です。これは昭和53年8月の宅地造成中に偶然出土したもので、発見後ほどなく所有者の方からの寄贈を受けて、現在は当館の歴史・民俗展示室にて常設展示しています。

なぜここに？

出土地は鳥取市の市街地西側の郊外に広がる湖山池東南部の丘陵上にあり、現在は布勢遺跡として周知されています。周辺には木製の柄杓や編みカゴなどの有機質遺物が多く出土した布勢第1遺跡や、2槽の丸木舟が出土した桂見遺跡、大正期に山陰地方初の縄文土器が発見された青島遺跡等があります。また、近年の発掘調査でも湖山池南岸部の低地から多くの縄文時代の遺跡が見つかりました。この大珠の発見は縄文人の足跡が湖山池東南部の丘陵上にまで及んでいたことを物語ります。

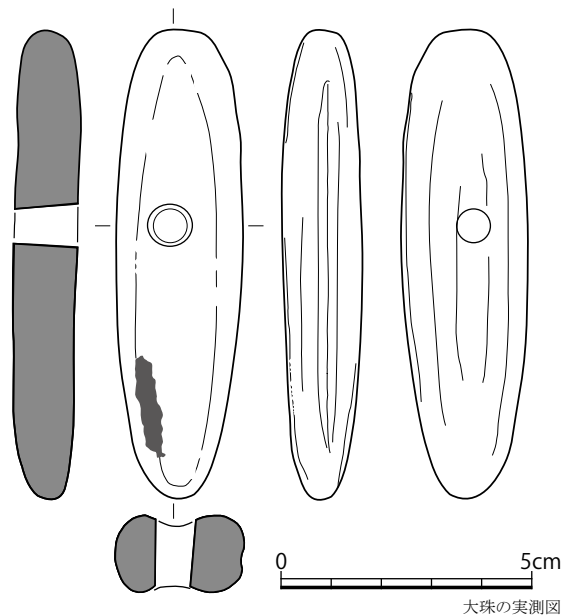
東日本との交流の証か？

大珠の大きさは全長9.30cm、最大幅2.54cm、厚さは最大1.52cmで、重さは74.7g、比重は3.32です。原石を長楕円形に加工して片面から穿孔したもので、今から5000年前の縄文時代中期の東日本に多い鯉節形といわれるタイプのものです。共伴品は後世の混入品である土製の錘の他になく、詳しい年代は分かりません。素材は大珠に一般的なヒスイ（硬玉）ではなく、軟玉（ネフライト）製と推定しています。

写真をよく見ると中央と右側面に浅い溝状のくぼみがあるのがお分かりいただけると思います。類似するものは秋田県大館市萩ノ台Ⅱ遺跡出土の2点や、青森県黒



布勢遺跡から出土した大珠



大珠の実測図

石市牡丹平出土品等がありますが、いずれも東北地方である点が注目されます。

このような東日本との関係性が窺える出土品は、この地域の集団が東日本との間で交流を行っていたことを示唆するものかもしれません。

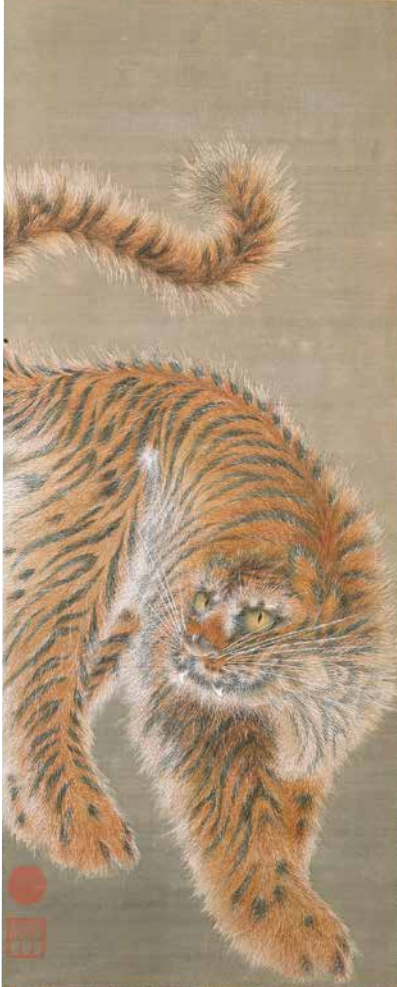
(学芸課 小嶋 浩和)



新收藏品紹介

かたやまようこく もうこず
片山楊谷 《猛虎図》

— 虎を得意とした楊谷 異色の三幅対 —



片山楊谷《猛虎図》江戸時代後期 絹本着色(鳥取県指定保護文化財)

本作は片山楊谷(1760～1801年)の虎を主題とした作品の中でも、特に知られているものの中の一つ。右幅の何かを威嚇する(いかく)ような白い虎、中幅の墨一色で表された天を仰ぐ虎、左幅のじろりとこちらを睨む虎と、三幅にはそれぞれ三様の虎が描かれています。虎の毛は、楊谷お得意の「毛描き」と呼ばれる一本一本を細い線で描く手法で表されますが、その密度は過剰ともいえるほどでしょう。背景は墨が刷かれてあるのみで、毛描きによって表れた輪郭線を丁寧に塗り残して処理しています。画面からはみ出た構図でその威容(いよう)と画面全体の緊張感が強調される反面、「モフモフ」感にあふれる虎たちはどこかユーモラスな表情で、親しみやすさすら感じられます。

楊谷は長崎の医家に生まれ、地元長崎で画技を身に

付けた後に若くして諸国を巡歴しました。19歳時点で既に5人の弟子がいたことが確認できる資料もあることから、その早熟(うかが)ぶりが窺えます。知人を頼って鳥取を訪れた折、西館池田家の藩主池田冠山の目に留まり、西館に仕えていた茶道片山家の養子となって冠山に召し抱えられたと伝わりますが、以後42歳で亡くなるまで鳥取を拠点に活躍しました。本作にみられる奇抜な形態、濃厚な彩色、細密な描写といった楊谷様式の源流は、「唐絵」すなわち当時長崎に流入した中国絵画や、渡来した黄檗僧(おうぼく)や沈南蘋(しんなんびん)ら中国人画家がもたらした絵画様式に求めることができます。現代の我々にとってはかわいいとさえ思ってしまうこの作品も、当時の人々の目には異国情緒にあふれた清新なものとして映ったに違いありません。(美術振興課 山田 修平)

鳥取県立博物館が 県内各所に出張します

資料や作品の魅力を地域の方々にもっと知っていただくため、昭和53年度から鳥取県内各地域に出かけて所蔵資料の展示を行っています。
令和5年度は自然分野が北栄町、美術分野が日南町へ出かけてゆきます！

移動博物館 in 北栄町

最新版！ レッドデータブックとっとり ～鳥取県の絶滅のおそれのある野生生物～

- 令和5年
会期 **8月5日(土)～8月27日(日)**
午前9時～午後5時(最終入館は午後4時45分)
- 休館日 8月7日(月)、14日(月)、21日(月)
- 会場 **北栄みらい伝承館**
(北栄町北条歴史民俗資料館)
鳥取県東伯郡北栄町田井47-1
TEL 0858-36-4309

入場無料

主催：鳥取県立博物館、北栄町教育委員会



ニッコウイワナ(剥製)

チュウゴクブチ
サンショウウオ(剥製)

現在、世界各地で多くの野生生物が数をへらし、絶滅の危機にあります。原因は、おもに人間活動によるものです。

「レッドデータブック」は、こういった絶滅のおそれがある野生生物をとりあげ、その現状などをまとめたものです。さまざまな国や地域ごとにつくられ、それぞれの地域の自然をまもるのに重要な役割をはたしています。

鳥取県では、2002年に最初のレッドデータブックがつけられ、その後2012年、2022年に内容の見直しが行われました。この展示では、2022年の最新版の内容を実物標本とともに紹介します。



サギソウ(レプリカ)



オオタカ(剥製)

移動美術館 in 日南町

“みる”からはじまる「対話型鑑賞」のススメ

- 令和5年
会期 **9月1日(金)～9月24日(日)**
午前8時30分～午後5時
- 休館日 9月4日(月)、11日(月)、19日(火)
- 会場 **日南町美術館**
鳥取県日野郡日南町霞785
TEL 0859-77-1113

入場無料

主催：鳥取県立博物館、日南町教育委員会



小早川秋聲《國之権》1944(昭和19)年、1968(昭和43)年改作
京都霊山護国神社(日南町美術館寄託)

鳥取県立博物館の美術分野では「移動美術館」と題し、博物館外での当館の所蔵作品を鑑賞する機会を提供し、美術への関心を高める場づくりを進めています。令和5年度の日南展では、会期中に展示作品をお話ししながら鑑賞する「対話型鑑賞」を行うことを想定して、当館と日南町美術館の所蔵品を中心にセレクトし展示いたします。2年後の鳥取県立美術館の開館に向けて進めているファシリテーター(鑑賞の進行役)のスキルアップを図るとともに、地域連携や美術館同士の連携を重視した展示を計画しています。

対話型鑑賞のファシリテーターを随時募集しています。

ご興味のある方は、鳥取県立博物館 美術振興課 (0857-26-8045) にお問合せください。

鳥取県立博物館ニュース No.35

令和5年(2023年)3月24日発行

編集・発行 鳥取県立博物館

住所 〒680-0011 鳥取市東町2丁目124番地

TEL 0857(26)8042(代)

FAX 0857(26)8041

URL <https://www.pref.tottori.lg.jp/museum/>

E-mail hakubutsukan@pref.tottori.lg.jp



博物館 HP



美術部門

- 入館料：常設展／一般180(150)円
()内は20名様以上の団体料金
 - 開館時間：9時～17時(入館は16時30分まで)。一部、19時(入館は18時30分)まで開館の土曜日あり。詳細はお問い合わせください。
 - 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌平日が休館日) 国民の祝日の翌日(土、日、祝日の場合を除く) 年末年始(12月29日～1月3日)
- ※具体的な休館日等は、ホームページでご確認ください。



- JR鳥取駅からバスで
 - ①100円バス「くる梨」緑コース「①仁風閣・県立博物館」下車すぐ
 - ②レール麒麟獅子(土・日・祝のみ)「③鳥取城跡」下車すぐ
 - ④砂丘・湖山・箕露方面行「西町」下車、約400m
 - ⑤市内回り岩倉・中河原方面行「わらべ館前」下車、約600m
 - JR鳥取駅からタクシーで…約10分
 - 鳥取砂丘コナン空港から…鳥取駅行連絡バス「西町」下車、約400m
 - お車で…鳥取自動車道・鳥取ICまたは鳥取西ICより約15分
- ※当館駐車場21台駐車可能・満車の場合は県庁北側駐車場【無料】へ

お客様の満足の「MORRIX」へ…
MORRIX
株式会社モリックスジャパン
TEL 0857-23-3641

本社 鳥取市龍岡町2-03-6
倉吉店 倉吉市朝日5-2-9 電話センターレジデンス1-3号
<http://www.morrrix.co.jp/>

NEX NIPPON EXPRESS
日本通運株式会社 鳥取事業所
TEL 0857-28-0202